



町長 野川和好

施政方針

現在、県施行の北部土地区画整理事業が進められておりますが、いよいよ本年7月に換地処分されることとなり、同地区の町名も「内宿台、西小針、学園」へと変更される予定です。また、中部地区の基盤整備もさらに進み、良好な住宅地が形成されてきたことから、町外からの転入者も多く、人口の伸びは一時期の急激な増加のピークは過ぎたものの、現在もなお緩やかな上昇を続け、人口増加率も県内トップクラスとなっております。特に若年層の増加が顕著であり、若い家族が集う活気にあふれる町として発展を続けております。

皆様のご意見を踏まえたくうえで、伊奈町総合振興計画後期基本計画、第5次伊奈町行政改革大綱ならびに伊奈町次世代育成支援行動計画後期計画を策定いたしました。今後とも住民の視点に立つた施策を展開していきたいと考えております。本年度実施した主な事業といたしましては、土木関係では、平成17年度から継続して実施してまいりました栄中央通りのバリアフリー化工事が完成いたしました。段差の少ない歩行者に優しい道路に生まれ変わり、地域の方々に好評と伺っております。都市計画関係では、老朽化した町営住宅を建替えるため、町営住宅建築に係る協定を埼玉県住宅供給公社と締結いたしました。教育関係では、南小

月からは、町立図書館に指定管理者制度を導入し、民間の蓄積された知識・技術の活用により住民サービスの向上を図りました。また、小針中学校には環境教育の一環として、財団法人イオン環境財団からの寄贈により太陽光発電設備を設置いたしました。水道関係では、今まで蓮田市から供給を受けておりました下谷、中島地区に配水管の整備を行ったところであり、平成22年4月から町の水道の供給を開始いたします。その他、防犯対策事業、交通安全対策事業、都市基盤整備事業などの諸施策を実施したところでございます。

しいものがあります。今年に入って景気回復の兆しが報道されておりますが、実感が伴わず先の読めない状況がなお続いていきます。伊奈町におきましても、こうした経済情勢を反映し、平成22年度は歳入の根幹をなす町税収入のうち、個人町民税、特に法人町民税が前年に引き続き大幅に減少し、町税全体に減少が見込まれるところでございます。一方歳出では、扶助費や物件費などの義務的経費が年々増加しており、町税収入の減額と相まって財政運営は極めて厳しい状況にあると認識しているところでございます。

学校開放講座などの各種事業を引き続き実施するなど、生涯学習の推進を図ります。また、教育環境の充実のため、平成21年度に作成した実施設計に基づき、南小学校の校舎耐震工事に着手し、今後町内すべての小中学校の耐震化を目指してまいります。また、老朽化している小針小学校体育館・プール棟改築工事に着手いたします。

すこやかで心安らぐ福祉を育む

健康・福祉面では、若い子育て世代の増加などから、就学前児童の保育環境の整備が急務となっておりますので、保育所入所待機児童の解消に向けて、新たな民間保育所の整備に取り組んでまいります。また、小学校低学年を中心とした放課後児童クラブのニーズも増加しております。子どもたちが良好な環境で放課後

「自然と調和した、ふれあい・安心安全・住みよいまち」を目指して

一般会計予算

108億3,100万円

町総合振興計画後期基本計画に基づく22年度の主な施策

心豊かな人と文化を育む

教育・文化面では、町内の高等学校等とも連携しながら、

を過ごせるよう、放課後児童クラブの充実を図り、子育て世代への支援を行ってまいります。さらに平成22年度から新たに導入される子ども手当の給付を行ってまいります。

また、健康面では、21年度に引き続き、女性特有のがん検診推進事業を実施してまいります。

さらに、現在、老朽化が著しい町営住宅につきましては、埼玉県住宅供給公社が建設した住宅を町が取得する手法で整備を進めており、低所得者世帯等への良好な住宅供給を図ってまいります。

みどりうるおう美しい環境を育む

地球温暖化防止への啓発を積極的に行っていくとともに、一般家庭への太陽光発電システムの普及に努めてまいります。また、ふるさとの川の再生に向けて、生活排水の排水先である河川への流入水の汚濁状況などの調査を実施いたします。

また、安心安全のまちづくりのため、新たな防犯モデル地区の指定を行い、青色防犯

灯の設置などを進めるほか、町内全域において、引き続き道路照明灯や交通安全施設の設置による交通環境の整備を進めてまいります。さらには、大規模災害時などの不測の事態にも即応できるよう、避難所運営に関して関係機関とも連携しながら、避難所運営マニュアルの整備に着手いたします。

安心安全な生活基盤の整備としては、引き続き「いな穂街道」の拡幅歩道整備に向けての用地買収、土地区画整理事業、上下水道事業の推進を図ります。南部大公園においては、流域貯留浸透施設を整備し、雨水処理対策を図るとともに、災害等の緊急時の飲料水を確保するため、耐震型の貯水槽を設置いたします。

暮らしと活力を支える産業を育む

農業振興として、農道および用排水路の補修・整備に努めるとともに、農業の担い手の育成、地産地消の推進などに取り組んでまいります。

また、商工業振興として、景気低迷のなか、町商工会と

も連携しながら中小企業の経営の安定化を図るとともに、既存の観光事業の充実を図りつつ、観光協会の自主的活動を積極的に支援してまいります。

いきいきとした参加型社会を育む

引き続き人権啓発・男女共同参画の推進を図ります。また、協働のまちづくりを進めていくため、町民コメント制度の積極活用が図れるよう努め、町民参画の体制づくりを進めます。

行政運営といたしましては、平成22年度から5年間を計画期間とする第5次行政改革大綱を基に、徹底した行財政改革に取り組みながら、町民とともにまちづくりが行える体制整備に努めてまいります。また、パソコンを利用した電子入札を実施できるよう準備を進め、より公平・公正な入札の執行を図ってまいります。

また、北部区画整理換地処分に伴い町名地番が変更されることから、関係各課において新住所への円滑な切り替えを行い、地域住民が安心して

生活できるよう対応してまいります。

このほか、本年は昭和45年の町制施行から40周年を迎えることから、町民とともに祝うための記念式典の実施や町勢要覧の作成などを行ってまいります。

予算編成方針

国の平成22年度地方財政対策におきましては、個人所得の大幅な減少や企業収益の急激な悪化等により、地方税収入や地方交付税の原資となる国税収入が引き続き落ち込む一方、社会保障関係経費の増加や公債費が高い水準で推移すること等により、給与関係経費が減少してもなお、財源不足が過去最大の規模に拡大するものと想定されております。

これは町の財政状況につきましても同様であります。個人・法人を合わせた町民税収入の大幅な減少が見込まれ、また国からの各種交付金等につきましても一層の縮小が予想されております。歳出におきましては、民間保育所整備

促進事業や小針小学校体育館・プール棟改築事業など、福祉、教育分野への予算を大幅に拡大するため、近年の臨時財政対策債発行の急増等とも相まって、地方債残高を押し上げる強い要素となり、高い水準にある借入金金の償還が将来の大きな負担となる極めて厳しい状況にございます。

このような非常に厳しい財政状況の中ではありますが、地域福祉施策、環境対策、教育施策、生活関連社会資本の整備など、地域に必要なサービスを確実に提供できる安心安全なまちづくりを進めてまいります。同時に、町内の景気動向を注視し、一部事業について平成21年度への前倒し事業として実施し、平成22年度予算と一体となった切れ目のない執行に配慮したほか、一層の節減合理化や施策の厳選等を行いました。効率的、効果的な財源配分に努めるとともに、地方債の活用や基金の取り崩し等により財源の確保を図り、平成22年度予算を編成いたしました。

予算詳細は次頁以降へ